



ラックマウント変換機構 取扱説明書

(PG-R1CK22)

はじめに

このたびは、PRIMERGY TX150 S6 ラックマウント変換機構をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

ラックマウント変換機構は、タワータイプのサーバをラックタイプに変換するためのキットです。

本書はラックマウント変換機構の取り扱いおよび変換方法について説明しています。

本書をご覧になり、ラックマウント変換機構を正しくお使いいただきますよう、お願いいたします。

2008 年 10 月

安全にお使いいただくために

本書には、本製品を安全に正しくお使いいただくための重要な情報が記載されています。本製品をお使いになる前に、本書を熟読してください。特に、本書の「安全上のご注意」をよくお読みになり、理解されたうえで本製品をお使いください。
また本書は、本製品の使用中にいつでもご覧になれるよう大切に保管してください。

ラックについて

サーバを搭載できるラックには、4つのタイプがあります。以下のラック以外にはサーバを搭載することができませんので、ご注意ください。

・スタンダードラック

(型名：PG-R6RC1、PG-R6RC2、PG-R4RC1、PG-R4RC2、PG-R4RC3、PG-R4RC4、PG-R4RC5、PG-R3RC1、PG-R3RC2)

・スリムラック

(型名：GP5-R1RC6、GP5-R1RC7、GP5-R2RC3、GP5-R2RC4)

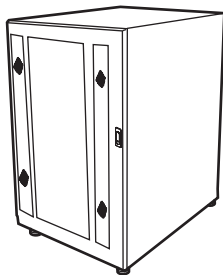
・16U ラック

(型名：PG-R5RC2)

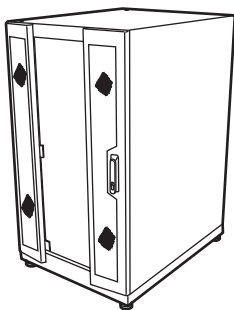
・低騒音型ラック

(型名：PG-R8RC1)

[16Uラック]



[スタンダードラック]





[スリムラック]






本書の表記

■ 警告表示

本書ではいろいろな絵表示を使っています。これは装置を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解のうえ、お読みください。

 警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。
 注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が損害を負う可能性があること、および物的損害が発生する可能性があることを示しています。

また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次の記号を使用しています。

	△で示した記号は、警告・注意を促す内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容が示されています。
	⊘で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な禁止内容が示されています。
	●で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な指示内容が示されています。

■ キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：【Ctrl】キー、【Enter】キー、【→】キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「+」でつないで表記しています。

例：【Ctrl】+【F3】キー、【Shift】+【↑】キーなど

■ DVD-ROM ドライブの表記について

本書では、DVD-ROM ドライブを「CD/DVD ドライブ」と表記しています。

■ コマンド入力

本文中では、コマンド入力を次のように表記しています。



```
diskcopy a: a:
      ↑  ↑
```

- ・↑の箇所のように文字間隔を空けて表記している部分は、【Space】キーを1回押してください。
- ・使用するOSがWindowsまたはMS-DOSの場合は、コマンド入力を英大文字、英小文字のどちらで入力してもかまいません。
- ・ご使用の環境によって、「¥」が「\」と表示される場合があります。
- ・CD/DVDドライブのドライブ文字は、お使いの環境によって異なるため、本書では[CD/DVD ドライブ] で表記しています。入力の際は、お使いの環境に合わせて、ドライブ文字を入力してください。

[CD/DVD ドライブ] ¥setup.exe

■ 本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
 重要	お使いになる際の注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
 POINT	ハードウェアやソフトウェアを正しく動作させるために必要なことが書いてあります。必ずお読みください。
→	参照ページや参照マニュアルを示しています。

■ 製品の呼び方

本文中の製品名称を、次のように略して表記します。

製品名称	本文中の表記
PRIMERGY TX150 S6 ラックマウント変換機構	ラックマウント変換機構／本製品
PRIMERGY TX150 S6 SAS model	サーバ本体／本サーバ
PRIMERGY TX150 S6 SATA model	

■ サーバタイプの呼び方

本サーバの形態を区別して、以下の名称を用いて説明しています。

タイプ	本文中の表記
据え置きタイプ	タワータイプ
ラックに搭載するタイプ	ラックタイプ

■ 商標

Intel、Xeon は、アメリカ合衆国およびその他の国におけるインテルコーポレーションの商標または登録商標です。

その他の会社名および製品名は、各社の商標または登録商標です。

Copyright FUJITSU LIMITED 2008

安全上のご注意

本製品を安全にお使いいただくために、以降の記述内容を必ずお守りください。
なお、サーバ本体の設置や使用上のご注意は、サーバ本体に添付の『安全上のご注意』に記載しています。必ずお読みいただき、正しくご使用ください。

⚠ 警告

感 電



- ・ サーバ本体をラックタイプに変換するときは、システムを終了し、サーバ本体および周辺装置の電源を切り、電源ケーブルをサーバ本体から取り外してください。

感電したり機器が故障するおそれがあります。

禁 止



- ・ 内部のケーブル類や装置を傷つけたり、加工したりしないでください。故障・火災・感電の原因となります。

⚠ 注意

指 示



- ・ サーバのラックタイプへの変換作業は、安定した場所で行ってください。オプションの搭載によって、最大 28kg の重量となりますので十分注意してください。

指 示



- ・ サーバのラックタイプへの変換作業は、サーバ本体を横にして作業をするのに十分な広さの場所で行ってください。

指 示



- ・ 電源を切った直後は、サーバの内部の装置が熱くなっています。内蔵オプションの取り付けや取り外しを行う場合は、電源を切ったあと 10 分ほど待ってから、作業を始めてください。

禁 止



- ・ ラックの開口部（通風孔など）をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。

禁 止



- ・ 電源ケーブルおよび各種ケーブル類に足がひっかかる場所には設置しないでください。故障の原因となります。

禁 止



- ・ 空気の吸排気口である装置前面部および背面部をふさがないでください。これらをふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。

禁 止



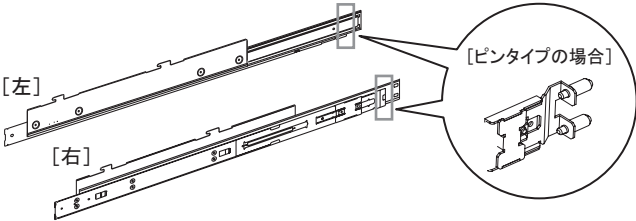
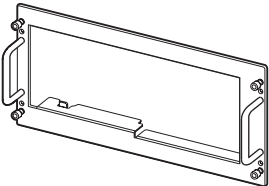
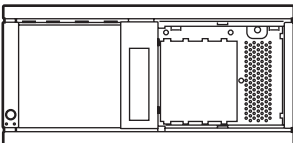






- ・ サーバ本体を移動する場合は、必ず電源を切り、ケーブル類／マウス／キーボード／AC ケーブルを外してください。オプションの搭載によって、最大 28kg の重量となりますので十分注意してください。

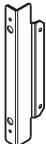





目次

1	梱包物の確認	6
2	作業を始める前に	8
2.1	作業の流れ	8
2.2	作業前の準備	9
3	変換手順とラックへの搭載	11
3.1	内蔵ハードディスクユニットの取り外し	11
3.2	タワータイプの各カバー取り外し	13
3.3	オペレータパネルと 5 インチストレージベイの入れ替え	15
3.4	ラックタイプの各カバー取り付け	18
3.5	各種ラベルの貼り付け	19
3.6	サーバ本体のラックへの搭載	21
3.7	内蔵ハードディスクユニットの取り付け	25
3.8	ラック搭載後の周辺装置接続	26
4	作業後の操作	28
4.1	周辺機器、電源ケーブルの接続	28
4.2	電源を入れる前の確認	28
4.3	Chassis ID の更新	29
	付録 A 使用環境シート	30

1 梱包物の確認

作業を行う前に、本製品に同梱されている以下の部品がすべてそろっているかどうかを確認してください。万一、足りない部品があった場合は担当営業員に連絡してください。

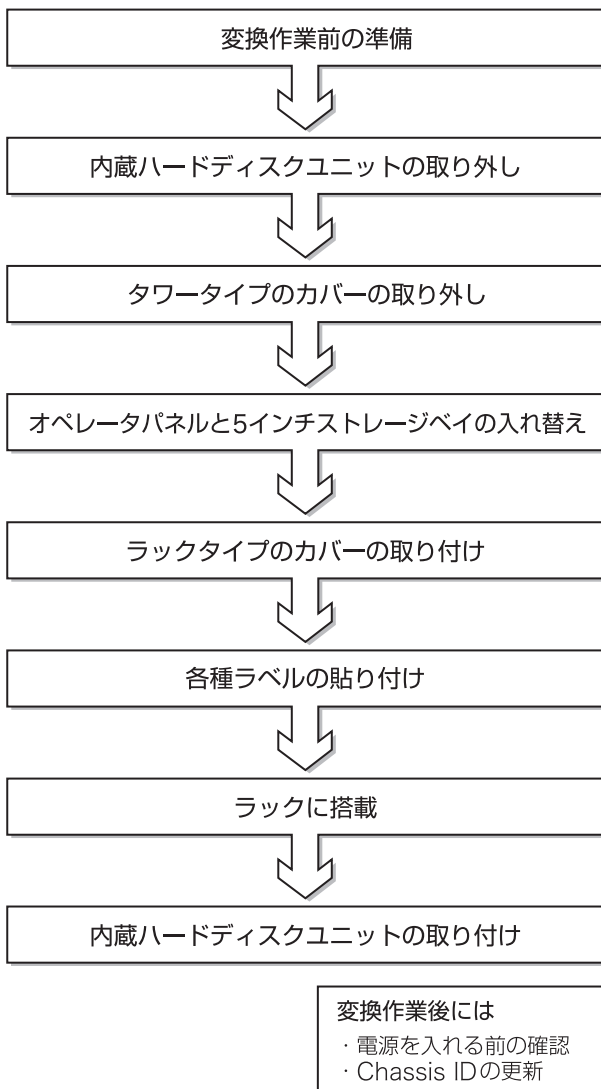
部品	
<input type="checkbox"/> スライドレール（レールブラケットを含む）：1組 	
POINT ▶ 本製品を購入された時期によっては、スライドレールの形状が一部異なります。	
<input type="checkbox"/> ラックフロントカバー：1枚 	<input type="checkbox"/> フロントカバー：1枚 
<input type="checkbox"/> M5 サラネジ：4個 	<input type="checkbox"/> M4 サラネジ（長さ 6 mm）：4個 
<input type="checkbox"/> M3 サラネジ：4個 	<input type="checkbox"/> M4 タップタイトネジ（長さ 10 mm）：8個 
<input type="checkbox"/> ワッシャー：4個 	<input type="checkbox"/> M5 ラックナット：4個 

部品	
<input type="checkbox"/> フロントカバーブラケット : 2 個 	<input type="checkbox"/> 型名号機ラベル : 1 枚 
<input type="checkbox"/> PRIMERGY ロゴラベル : 1 枚 	<input type="checkbox"/> model ラベル : 2 枚 (SAS モデル用、SATA モデル用 1 枚ずつ)  
<input type="checkbox"/> CPU ラベル : 1 枚 (Xeon [®] プロセッサ用) 	<input type="checkbox"/> TX150 S6 搭載用テンプレート
<input type="checkbox"/> タグラベル	

2 作業を始める前に

変換作業の流れと、作業前の準備について説明します。

2.1 作業の流れ



2.2 作業前の準備

⚠ 注意

指 示



- ・ サーバのラックタイプへの変換作業は、安定した場所で行ってください。オプションの搭載によって、最大 28kg の重量となりますので十分注意してください。

指 示

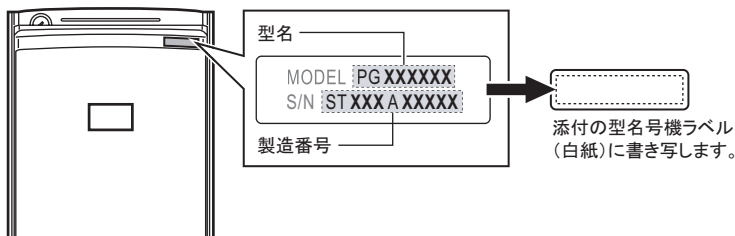


- ・ サーバのラックタイプへの変換作業は、サーバ本体を横にして作業をするのに十分な広さの場所で行ってください。

1 「A 使用環境シート」(→ P.30) に、必要事項を記入します。

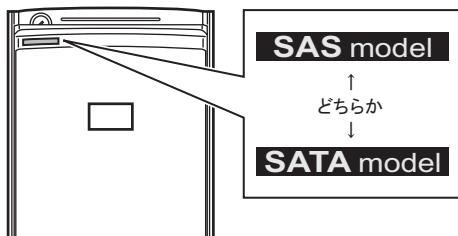
2 添付の「型名号機ラベル」に、型名および製造番号を書き写します。

「型名号機ラベル」は、本体の下図の位置に貼付されています。



3 サーバ本体のモデル表記を確認します。

「model ラベル」は、本体の下図の位置に貼付されています。



4 サーバのシステムの動作状況を確認し、システムを終了します。

ラックタイプに変換する前に、必ずシステムを起動してシステムの動作状況を確認してください。

5 サーバ本体の電源を切り、電源ケーブルをサーバ本体から取り外します。

- 6 周辺機器が接続されている場合は、周辺機器の電源を切り、サーバ本体からすべて取り外します。

注意

指 示



- ・ 電源を切った直後は、サーバの内部の装置が熱くなっています。内蔵オプションの取り付けや取り外しを行う場合は、電源を切ったあと 10 分ほど待ってから、作業を始めてください。

3 変換手順とラックへの搭載

ラックタイプに変換し、サーバをラックへ搭載する手順について説明します。

3.1 内蔵ハードディスクユニットの取り外し

内蔵ハードディスクユニットを取り外します。取り外した内蔵ハードディスクユニットは、サーバ本体をラックに搭載したあと、再度取り付けます。

⚠ 注意

指 示



- ・ サーバ本体を移動する前に、必ず内蔵ハードディスクユニットを取り外してください。内蔵ハードディスクユニットに衝撃が加わると、保存されているデータが損傷することがあります。

指 示



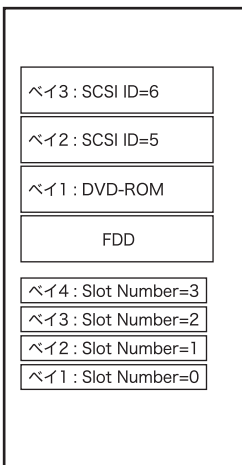
- ・ 電源を切った直後は、サーバの内部の装置が熱くなっています。内蔵オプションの取り付けや取り外しを行う場合は、電源を切ったあと 10 分ほど待ってから、作業を始めてください。

■ 内蔵ハードディスクユニットの搭載位置について

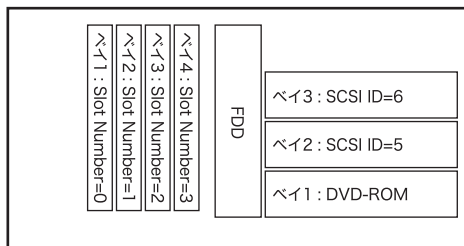
サーバをラックタイプに変換すると、ベイの向きが変わります。

内蔵ハードディスクユニットを取り外す前に、ハードディスクユニットの搭載ベイ番号と Slot Number を記録します。ラックタイプに変換後は、必ず取り外し前と同じ位置に搭載してください。

[タワータイプ時の正面]



[ラックタイプ時の正面]

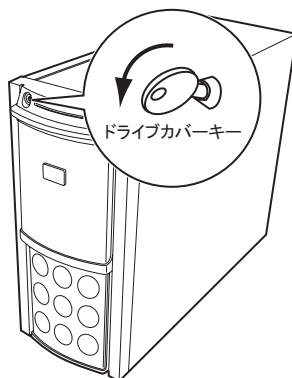


■ 取り外し手順

1 ドライブカバーキーを左に回し、ロックを解除します。

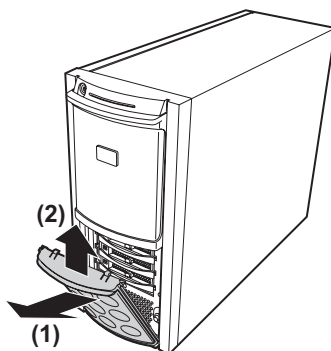


- ▶ ドライブカバーキーは装置ごとに異なります。紛失しないように注意してください。紛失した場合は、ロック部を破壊する必要がありますので、ドライブカバーキーの管理については十分ご注意ください。なお、万一ドライブカバーキーを紛失された場合は、担当営業員までご連絡ください。



2 ドライブカバーを上方にスライドさせた状態で、ハードディスクカバーを取り外します。

ハードディスクカバーを手前に倒して (1)、引き上げて (2) 取り外します。



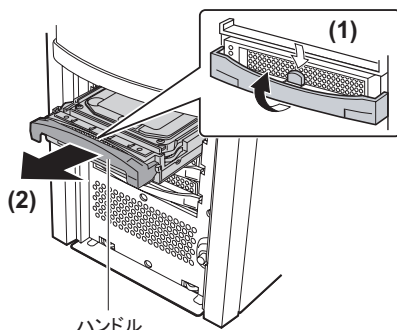
3 サーバ本体の金属部分に触れて人体の静電気を放電します。

4 内蔵ハードディスクユニットを取り外します。

内蔵ハードディスクユニット前面のタブを押しながらハンドルを上側に開け (1)、手前に引きます (2)。引き出すときは、内蔵ハードディスクユニットに手を添え、両手で持って引き出してください。



- ▶ 3.5 インチストレージベイのダミーユニットは取り外す必要はありません。そのままラックタイプに変換できます。



3.2 タワータイプの各カバー取り外し

左サイドカバー、フロントカバー、右サイドカバーを取り外します。

⚠ 注意

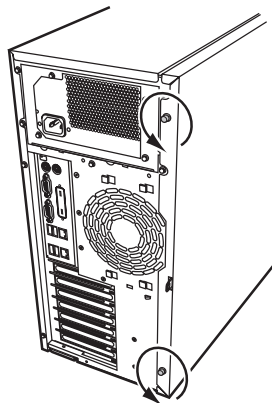
指 示



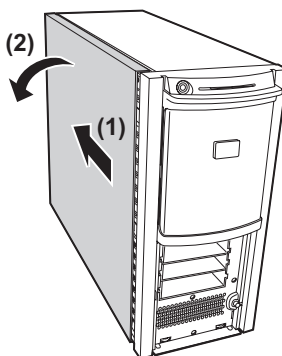
- ・ カバーや内蔵オプションを取り扱う場合には、サーバ本体の金属部分に触れて人体の静電気を放電してください。

■ 左サイドカバーの取り外し

- 1 サーバ本体背面側 2 箇所の M3 ネジをゆるめます。

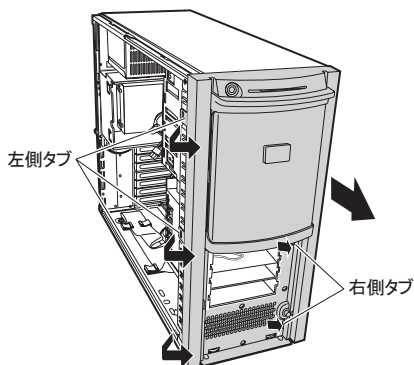


- 2 サーバ背面側にゆっくりとスライドさせながら (1)、手前に倒して取り外します (2)。



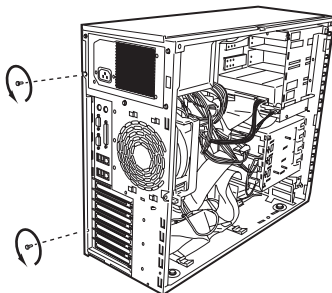
■ フロントカバーの取り外し

- 1 サーバ本体左側 3 箇所のタブを外したあと、右側 2 箇所のタブを押しながら、手前に引いて取り外します。



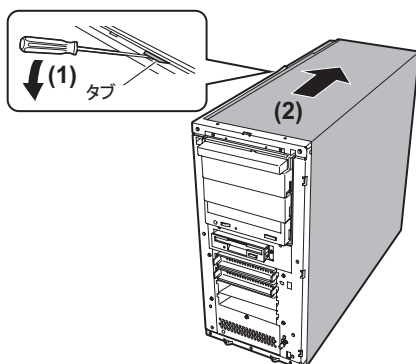
■ 右サイドカバーの取り外し

- 1 サーバ本体背面側 2 箇所の M3 ネジを取り外します。



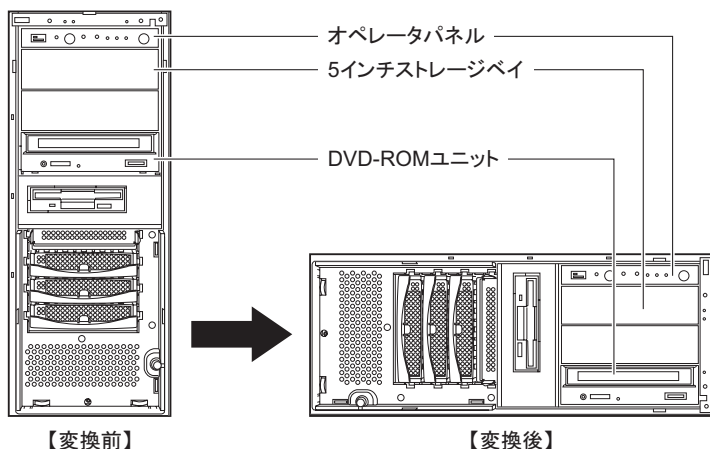
- 2 ドライバなどを使って右サイドカバーのタブを外し (1)、サーバ後方にスライドさせて取り外します (2)。

サイドカバーの上面を抑えながら、ゆっくりとサーバ後方にスライドさせてください。



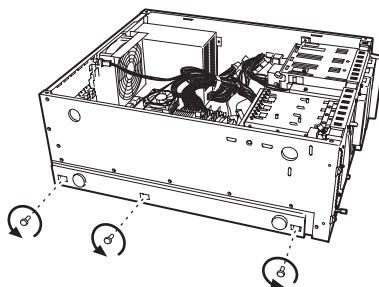
3.3 オペレータパネルと5インチストレージベイの入れ替え

ラックタイプに変換するときは、5インチストレージベイに搭載されているユニットおよびオペレータパネルを、以下の図のように向きを変えて入れ替えます。

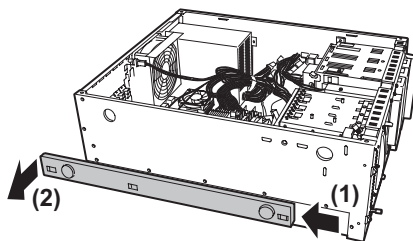


■ サーバ固定足の取り外し

- 1 サーバ本体を図のように横にして置き、サーバ固定足を固定しているネジ（3箇所）を取り外します。



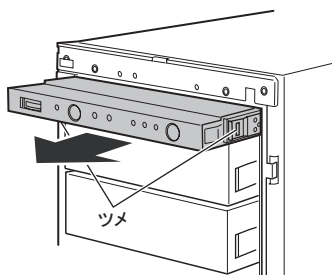
- 2 サーバ固定足のプレートごと背面側にスライドさせ（1）、手前に引いて取り外します（2）。



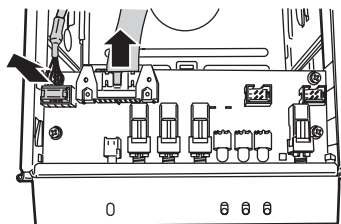
■ オペレータパネルと 5 インチストレージベイの取り外し

1 オペレータパネルを手前に少し引き出します。

両側のツメを内側に押しながら、ゆっくりと手前に引きます。



2 オペレータパネル上面のコネクタから、オペレータパネルのケーブル 2 本を取り外します。

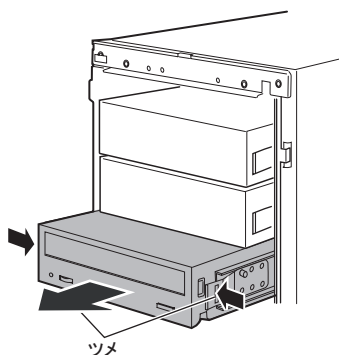


【オペレータパネル上面】

3 本体内部の 5 インチ内蔵オプションと DVD-ROM ユニットの各コネクタから、内部ケーブル、電源ケーブルをそれぞれ取り外します。

4 オペレータパネル、5 インチ内蔵オプション、ダミーユニット、DVD-ROM ユニットの 5 インチストレージベイから取り外します。

両側のツメを内側に押しながら、ゆっくりと手前に引きます。



■ オペレータパネルと 5 インチストレージベイの取り付け

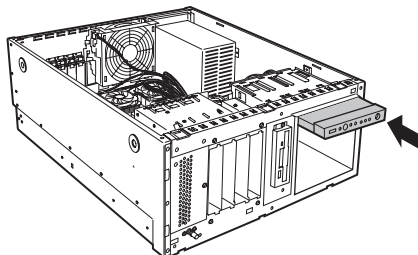
上からオペレータパネル、5 インチ内蔵オプションまたはダミーユニット、DVD-ROM ユニットの順に取り付けます。

1 サーバ本体を横置きにします。

ラックタイプの向きに置いてください。

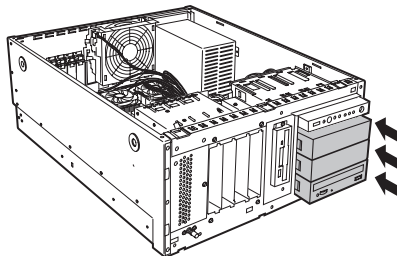
2 取り外したオペレータパネルを取り付けます。

半分ほど差し込んだら、オペレータパネル上面のコネクタに、元通りにケーブルを接続してください。その後、カチッと音がするところまで押し込んでください。



3 5 インチ内蔵オプション、ダミーユニット、DVD-ROM ユニットを取り付けます。

カチッと音がするところまで押し込んでください。



⚠ 注意



・ 各ドライブやダミーユニットを取り付けるときは、ケーブル類をサーバ本体の部品にはさみ込まないように注意してください。

4 DVD-ROM ユニットに、内部ケーブルおよび電源ケーブルを接続します。

5 5 インチ内蔵オプションに、内部ケーブルおよび電源ケーブルを接続します。

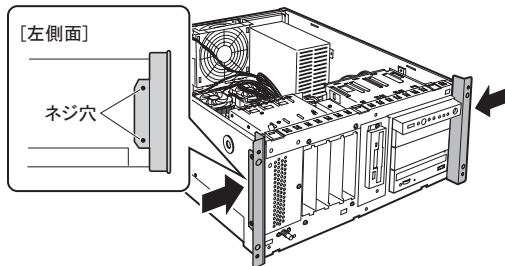
3.4 ラックタイプの各カバー取り付け

フロントカバー、左サイドカバー、ラックフロントカバーの順に取り付けます。

■ フロントカバーの取り付け

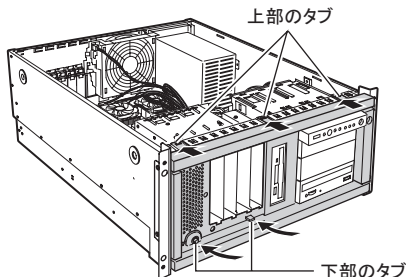
1 フロントカバーブラケットを、サーバ本体の両側に取り付けます。

左右各 2箇所ずつを、添付の M4 タップタイトネジで固定してください。



2 フロントカバーをサーバ本体正面から取り付けます。

先に下部 2 箇所のタブをはめ込んでから、上部 3 箇所のタブをはめ込んで取り付けてください。



■ 左サイドカバーの取り付け

左サイドカバーは、「3.2 タワータイプの各カバー取り外し」(→ P.13) と逆の手順で取り付けてください。

重要

- ▶ 左サイドカバーを取り付ける前に、搭載している拡張カードがスロットの奥まで完全に差し込まれているかどうか確認してください。ラックタイプへの変換作業の衝撃などでカードの差し込みがゆるむ場合があります。

⚠ 注意

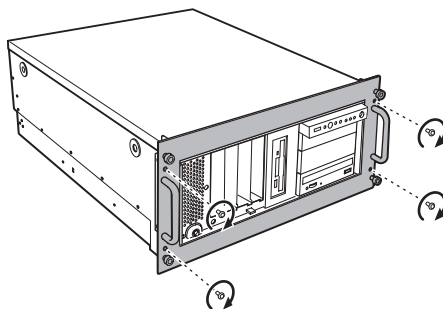


- ・ 左サイドカバーを取り付ける前に、サーバ本体内部に不要な部品や工具を置き忘れないように注意してください。

■ ラックフロントカバーの取り付け

1 ラックフロントカバーを取り付けます。

両側のフロントカバーブラケットに、添付の M4 タップタイトネジ 4 本で固定します。

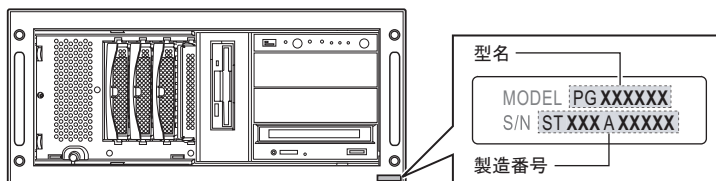


3.5 各種ラベルの貼り付け

サーバ本体をラックに搭載する前に、添付品の各種ラベルを、ラックフロントカバーの所定の位置にそれぞれ貼り付けてください。

■ 型名号機ラベルの貼り付け

「2.2 作業前の準備」(→ P.9) で記載した「型名号機ラベル」を、下図の位置に貼り付けてください。

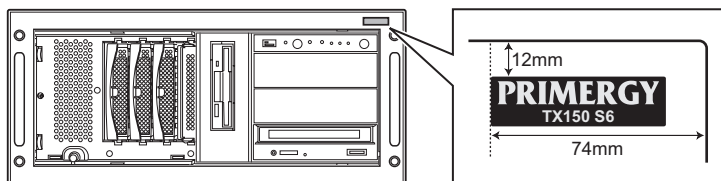


重要

- ▶ 型名と製造番号は、本サーバの故障などが発生し、修理相談窓口へご連絡の際にお伝えいただく必要があります。必ず所定の位置に貼り付けてください。

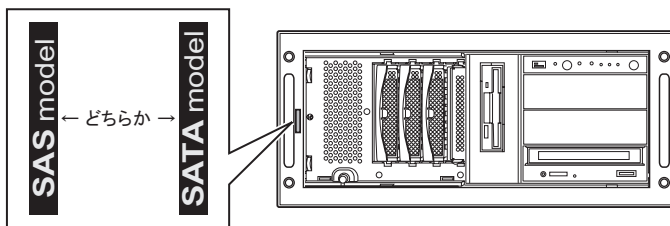
■ PRIMERGY ロゴラベルの貼り付け

「PRIMERGY ロゴラベル」を、下図の位置に貼り付けてください。



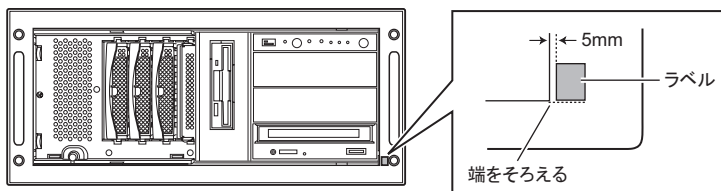
■ model ラベルの貼り付け

「2.2 作業前の準備」(→ P.9) で確認した「model ラベル」を、下図の位置に貼り付けてください。



■ CPU ラベルの貼り付け

「CPU ラベル」を、下図の位置に貼り付けてください。



3.6 サーバ本体のラックへの搭載

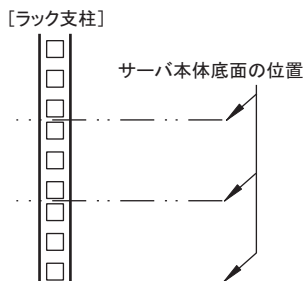
本サーバのラックタイプでは、5U 使用します。ラックへ搭載する前に、ラックのどの位置に取り付けるかを決めておきます。

■ サーバ本体の取り付け位置確認

1 ラックのフロントドアとリアドアを開けます。

2 サーバ本体を取り付ける位置を決めます。

ラック支柱の穴の間隔が狭い位置にサーバ底面がくるように合わせます。

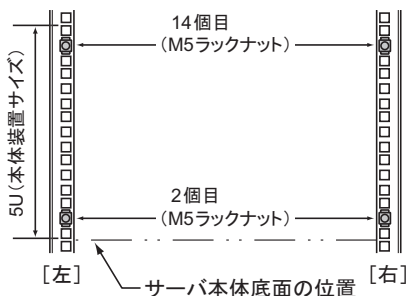


■ スライドレールの取り付け

1 M5 ラックナットをラックに取り付けます。

1 台の筐体につき 5U 使用します。サーバ本体を取り付ける位置の下から 2 個目と 14 個目の位置に、ラック支柱の内側からツメを上下に引っ掛けて取り付けます。同梱の TX150 S6 搭載用テンプレートを使用してください。

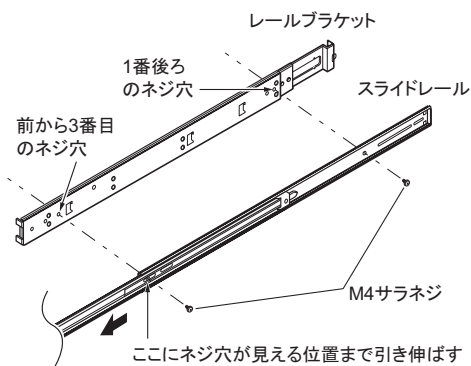
[ラック支柱前面]



2 スライドレールにレールブラケットを取り付けます。

前面側のネジ穴が見える位置までスライドレールを引き伸ばし、レールブラケットをM4 サラネジ（2本）で固定します。

スライドレールがピンタイプの場合は、スライドレールの突起部をレールブラケットの角穴に引っ掛けて、M4 サラネジ箇所でも固定します。



3 スライドレールをラックに取り付けます。

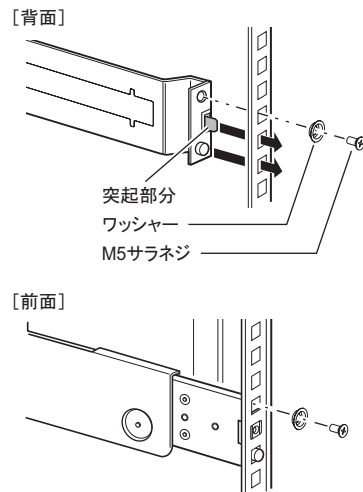
背面側から先に取り付けます。
背面側の取り付け穴（2個目）にレールの突起部分を差し込み、ワッシャーと M5 サラネジで3個目の位置を固定してください。

POINT

- ▶ スライドレール背面側が2箇所ともピンの場合は、ネジ止めは必要ありません。取り付け穴にピンを差し込んで固定してください。

前面側も同様に固定します。

■ 左側レールの取り付け方法

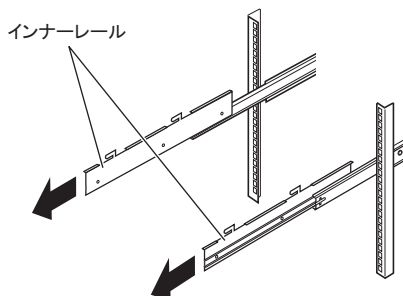


重要

- ▶ スライドレールは左用と右用があります。スライドレールの外側にある「LEFT」または「RIGHT」の表示を確認したうえで取り付けてください。左用と右用を間違えて取り付けると、サーバを搭載できません。

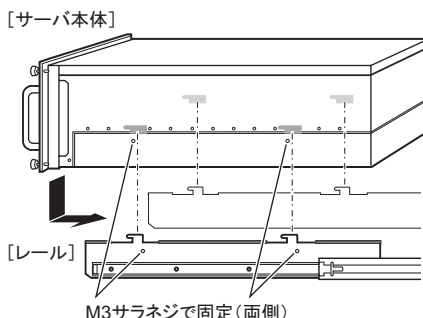
■ ラックへの搭載

- 1 スライドレール内側に収納されているインナーレールを、「カチッ」と音がするまで手前に引き出します。



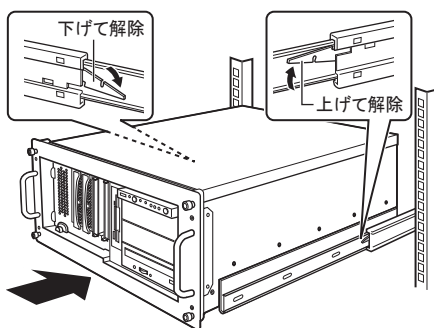
- 2 インナーレールにサーバ本体を取り付けます。

1. サーバ本体側面の取り付け溝にインナーレールの突起部分が収まるように、サーバ本体を上から差し込みます。
2. 取り付けしたインナーレールのネジ穴とサーバ本体側面のネジ穴が合う位置まで、サーバ本体を後方へ押し込みます。
3. M3 サラネジでしっかりと固定します。
両側各 2 箇所を固定します。



- 3 サーバ本体を後方へスライドさせて、ラックに搭載します。

スライドレール両側のロックを矢印方向に押しながら、ゆっくりと後方へスライドさせて搭載します。



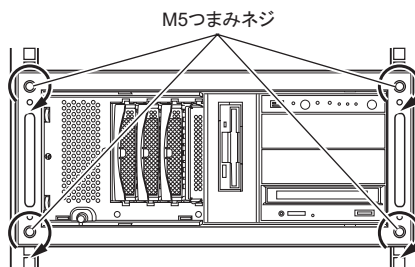
⚠ 注意



・ サーバ本体をスライドさせる場合や元に戻す場合は、指や衣服がはさまれないよう注意してください。けがをするおそれがあります。

4 サーバ本体とラックを固定します。

サーバ本体とラックを M5 つまみネジ 4 本で固定します。



重要

- ▶ ラックにサーバおよび周辺装置が搭載されていない場合には、ラックに添付のブランクパネルを取り付けてください。

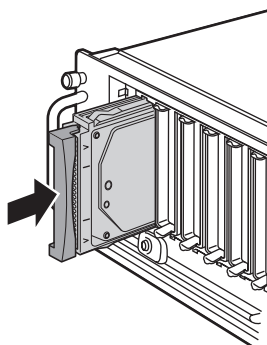
3.7 内蔵ハードディスクユニットの取り付け

⚠ 注意

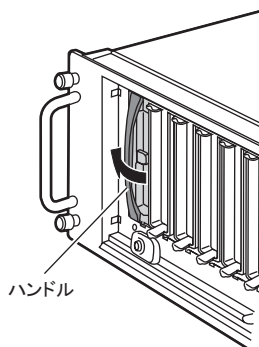


- ・ 内蔵ハードディスクユニットは、取り外したときと同じ位置に必ず取り付けてください。取り付け位置が異なると、正しく動作しないおそれがあります。

- 1 内蔵ハードディスクユニットのハンドルを起こした状態で、内蔵ハードディスクベイに差し込みます。



- 2 内蔵ハードディスクユニットのハンドルを倒して、確実に差し込みます。



- 3 すべての内蔵ハードディスクユニットを取り付けます。

👉 重要

- ▶ 取り付け後、奥まで完全に差し込まれているかどうかを確認してください。

3.8 ラック搭載後の周辺装置接続

サーバ本体をラックに搭載後、各種周辺装置を接続してください。ケーブル類を接続する際は、サーバ本体をラックから引き出して作業することを考慮し、余裕を持たせた配線を行ってください。

■ 各種ケーブルにタグラベルを貼り付ける

周辺装置の接続を行う前に、添付のタグラベルを各ケーブルに貼り付けます。タグラベルを貼り付けることによってケーブルの識別が容易になり、ケーブルの接続ミスなどの事故を防止できます。

タグラベルは下図のように記入し、ケーブル両側のコネクタに近い位置にそれぞれ1枚ずつ貼り付けます。

● 記入例

↓サーバ側

元	TX150 S6	COM #1
先	UPS-01	COM #1

↓接続先(切替機)側

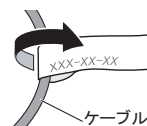
元	UPS-01	COM #1
先	TX150 S6	COM #1

接続先のコネクタ名／切替機名／識別名／タップ名／コンセント名などを記入します。ラベルによっては接続口番号を記入する欄があります。

接続元のサーバ名を記入します。タグラベルによっては、接続口番号を記入する欄があります。

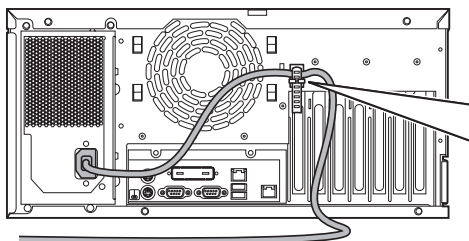
● 貼り付け方

ケーブルのコネクタに近い位置に、タグラベルの中心からケーブルを巻きつけるように貼り合わせます。



■ 電源ケーブルの固定

電源ケーブルをサーバ本体に接続したあとは、サーバ本体を前面に引き出す際に電源ケーブルが抜け落ちることを防止するために、サーバ本体背面のクランプに下図のように電源ケーブルを通して固定してください。



電源ケーブル

電源ケーブルをはさみ、クランプをぐらしてから強くひっぱって固定する

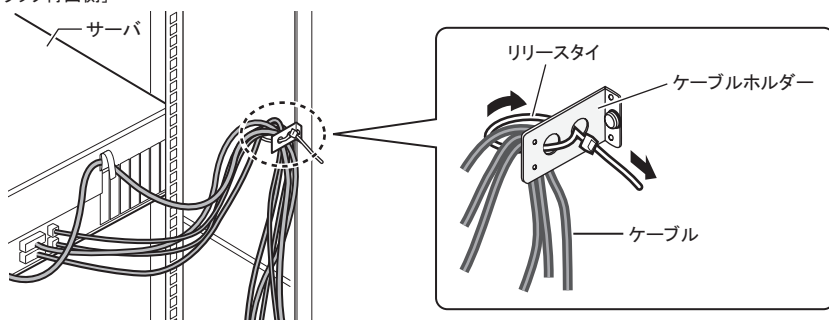
なお、電源ケーブルを抜くときは、必ず本体側の電源コネクタを抜くようにしてください。

■ ケーブルのフォーミング処理

すべてのケーブルを接続後、ケーブルを種類または位置別に束ねて、ラック背面側のケーブルホルダーに、リリースタイで結びつけて固定してください。

これをフォーミング処理といい、ラックに複数のサーバが搭載されている場合でも、ケーブルの見分けが容易になります。

[ラック背面側]



4 作業後の操作

ラックマウント変換作業後の操作、および運用前の設定について説明します。

4.1 周辺機器、電源ケーブルの接続

作業前に取り外した周辺機器、電源ケーブルを接続します。

サーバ本体に添付の『はじめにお読みください』を参照し、周辺機器、サーバの電源ケーブルを正しく接続してください。

4.2 電源を入れる前の確認

サーバに電源を入れる前に、必ず次のことを確認してください。

■ 内蔵ハードディスクユニットについて

確認事項	確認
3.5 インチストレージベイの奥まで完全に差し込まれていますか？	<input type="checkbox"/>
すべての内蔵ハードディスクユニットが取り付けられていますか？	<input type="checkbox"/>

■ ケーブルについて

確認事項	確認
正しく接続されていますか？	<input type="checkbox"/>
各ドライブのコネクタに完全に差し込まれていますか？	<input type="checkbox"/>
電源を入れる前に取り外しておく必要があるケーブルは、取り外してありますか？	<input type="checkbox"/>
サーバ本体の電源ケーブルは接続されていますか？	<input type="checkbox"/>

■ 拡張カードについて

確認事項	確認
拡張カードはスロットの奥まで完全に差し込まれていますか？ ※変換作業時の衝撃でカードの差し込みがゆるむ場合があります。	<input type="checkbox"/>

■ 周辺機器について

確認事項	確認
変換作業前に取り外した周辺機器は、正しく接続されていますか？	<input type="checkbox"/>

4.3 Chassis ID の更新

サーバ本体をラックに搭載したあと、ServerView の画面に表示されるサーバタイプをラックタイプに変更するため、以下の作業を行います。

重要

- ▶ 「Server Management Tools」ディスクを入れてシステムを起動する前に、ServerView の「OS ブート監視」機能が無効に設定されていることを確認してください（初期設定は無効です）。「OS ブート監視」機能が有効の状態ではシステムを起動すると、本サーバが自動的に電源切断や再起動するなど、意図しない動作をするおそれがあります。
「OS ブート監視」機能を有効にして運用している場合は、設定終了後、運用を再開する前に、再度本機能を有効にしてください。ServerView の詳細については、『ServerView ユーザーズガイド』を参照してください。

- 1 フロッピーディスクドライブおよび CD/DVD ドライブなどに媒体がセットされていないことを確認します。
- 2 ディスプレイや周辺装置の電源スイッチを押します。
- 3 「Server Management Tools」ディスクをセットし、サーバを起動します。
「Server Management Tools」ディスクは、ServerStart を使って作成してください。
作成方法については、『ユーザーズガイド』を参照してください。
- 4 DOS プロンプトが表示されたら、次のコマンドを入力し、【Enter】キーを押します。

A:¥SMT¥rack. BAT

正常に処理が行われると、以下のように表示されます。

```
OK: Chassis Id Prom (TX150S6R) has been written correctly
A:¥SMT>
```

- 5 フロッピーディスクを取り出し、サーバ本体の電源を切ります。

付録 A 使用環境シート

以下に各情報を記入しておきます。

この使用環境シートは担当営業員または修理相談窓口への連絡時に必要となりますので、
なくさないようにご注意ください。

サーバ	モデル名	PRIMERGY TX150 S6
	型名	PG-
	シリアル番号	
	Product Key ^(*)	— — —
ラック型名		
ラックマウント 変換機構型名		<input type="checkbox"/> PG-R1CK22

*：サーバ本体の左右どちらかの側面にProduct Keyラベルが
貼付されている場合のみ記入してください。

PRIMERGY TX150 S6

ラックマウント変換機構
(PG-R1CK22)

取扱説明書

B7FY-2441-01 Z0-00

発行日 2008 年 10 月
発行責任 富士通株式会社

- 本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- 本書に記載されたデータの使用に起因する、第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。